

正田 房次郎 氏 講堂を寄贈

大正 11 年木津小学校創立 50 年を記念し、正田房次郎氏が木津尋常高等小学校に講堂を新築寄贈されています。



現在もある正田氏銅像



講堂内部

校章入りの瓦や鯨は
現存しています。



正田房次郎氏は木津北大路の人で木津尋常高等小学校を卒業しました。

商才を生かし神戸で財を成し立身を遂げた正田氏は、そのお金を郷土の人材を育てるための教育に使うことを思い立ち、母校に講堂を寄付されたということです。沿革史には「講堂建設費三万円ハ正田房次郎氏ノ寄附ニカカル」と記録されています。当時のお金で3万円は、教員の給料が50円程度だった時代ですから、現在の2億円くらいであると考えられます。

アメリカ人形がやってきた

昭和2年(1927年)3月、アメリカから1万2739体の「青い目の人形」が日本に贈られました。日露戦争後から続くアメリカと日本の政治的緊張(満州権益をめぐる)をやわらげようと、米国人宣教師のシドニー・ギュリック博士が提唱して行われた親善活動でした。そして、その返礼として日本からは、「答礼人形」と呼ばれる市松人形58体が同年11月に日本からアメリカに渡りました。

木津小学校にも、昭和2年5月9日「アメリカ人形(青い目の人形)」がやってきました。歓迎式を開き、「答礼の人形」を贈るために生徒全員から寄付金を集めたことが『沿革史』には記されています。

昭和16年太平洋戦争が始まると、「青い目の人形」は敵国に関わるものとして、その多くが焼却処分されました。しかし、処分を忍びなく思った人々が人形を隠し、戦後に発見された例もあります。現在300体ほどの人形が確認され、平和を語る資料として大切に保存されています。木津小学校の「アメリカ人形」はどうなったのか、残念ながら記録は見当たりません。